

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (3)

ーアカマツ、クロマツー

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村 正史

庭によく利用されているマツ類（主にクロマツとアカマツ）については、何かと問い合わせが多く寄せられています。そこで、今回はマツ類（写真-1）が異常な状況になる代表的な事例とその対策について紹介致します。

1. 年を重ねる毎に徐々に樹勢が衰えていく原因とその対策

- マツ類を植えた時は庭の中で最も陽当たりの良い場所に植えたはずなのですが、年の経過とともに周囲の樹木の方がマツ類よりも大きくなっていくと、陽当たりが極端に悪くなってしまいます。そうなれば樹勢は衰え、最終的には枯れてしまいます。このような時には、周囲の大きな木の枝をすかし太陽の光がマツ類に届くようにすると、樹勢は容易に回復します。マツ類は太陽の光を好む樹木です。
- 住宅を建てる際には土壌を転圧し、庭には土壌を盛って植えるのが通常です。ところが、マツ類がだんだん大きくなると、根も成長して大きくなり、転圧した部分まで伸びていきます。ところが、元の土壌は堅く固められているので、水の通りが悪くなっており、後で盛った土との境のあたりには水が停滞して、過湿状態になっています。そのため、根が腐れ、養分や水を吸い上げることが困難となり、衰弱していきます。このような時は、水はけを良くし、堆肥等を入れて固まった土壌を改良することが大切です。
- 順調に成長しているのに、マツ類の周りに土壌を盛ると徐々に衰弱していきます。これは土を盛ったために、根が呼吸困難に陥って枯れてしまうためです。盛り土は止めましょう。

2. 急に、枝枯れが発生したり、木全体が衰弱したり（あるいは枯れたり）する原因とその対策

- 土壌条件は良く病害虫も見あたらないにも係わらず、上記のような状態になったマツ

類の相談を受けます。その場合の原因の多くは強度の剪定です。剪定のため葉の量が極端に減り、光合成能力が著しく低下するためです。これは害虫が葉の大半を食べたことと同じことです。強度の剪定には注意しましょう。

3. 夏から秋にかけて急激に葉が萎れ赤くなって枯れていく原因とその対策

- これはマツノザイセンチュウによる松枯れです。このような状態に至ったマツ類を助けることはできません。マツ類をこの被害から守るには、7月頃に数回スミチオン乳剤を樹冠に散布するか、胸の高さ当たりの幹に殺線虫剤を3月頃に注入するか、いずれかの方法をとる必要があります。

マツ類に異常が発生した場合の原因と対策を紹介しましたが、大切なことはいつもマツ類の状態を観察し、異常が見つかれば早期に原因を明らかにして対策を実行し、下の写真のような健全な状態を維持することが大切です。



写真-1 庭に植栽されているクロマツ